

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として「家庭的で安らぎのある生活をして頂き人権を尊重し質の高いサービスを提供する」	○	質の高いサービスを提供するのに職員の研修の場をもっと増やしていきたい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は全職員間で共有し実践に向けて一人ひとりが安心して暮らしていけるよう対応していきます。	○	管理者・職員は利用者がどのようにすれば家庭的で安らげる場になるか常に考えていきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議でご家族や地域の方々に理解してもらえるように情報公開しています。	○	家族との関わりの無い入所者にも職員が気づきを持ち、家庭的な雰囲気大切にしたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	認知症高齢者のホームとして地域の方々に理解してもらえるよう管理者・職員も意識し関わってもらえるよう心がけています。	○	GHの行事などを行う時は、地域の回覧板などで参加していただく様になっている。夏祭りには、子供会に参加していただけるようお願いする。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し廃品回収や小学校の下校時のパトロール、年末の夜警・消防訓練などにも積極的に参加しています。	○	地域活動に更に参加し交流を深め理解と協力を求めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	地域の高齢者の方との交流や婦人会などの参加に より活気があるホームにするよう場の提供につい て話し合っている。	○	行政・住民・ケアマネージャーに相談し、対応で きるネットワークにより、つながりを持ち、地域 の高齢者の方々とも関わりを持っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は外部評価の意義を理解し自己評価 を質の向上に活用しています。外部評価の結果を 改善の必要な所は素直に受け止め改善の方向へ積 極的に取り組んでいます。	○	自己評価・外部評価を実施することによりGHの 取り組みが適切であるか、改善するべき点がない か確認していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、入居者・入 居者家族・地域包括支援センターの職員・地域の 代表の出席を得て情報公開し、そこでの意見を聞 きホームの役割を示しサービスの向上に活かして います。	○	事前に運営推進会議の議題を送付し、意見が述べ やすいよう対応している。議題を提案していただ けるような関係作りを今後していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	入居者や運営についてわからないところがあれば 区担当者に相談し助言をしていただけるようにし ています。	○	引き続き連絡を取り質の向上に努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	常に入居者本位の立場に立ち権利を擁護するよう 運営者・管理者・職員は話し合いを学ぶ機会をも うけるように支援しています。	○	家族等のいない方もおられるので安心して生活で けるように今後も積極的に活用していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	全職員が日常の介護の中、虐待につながらないか ケースカンファレンスを行う。職員の介護におけ るストレスの無いよう職員のケアにも努めてい る。	○	虐待防止の認識を全職員が持ち人権を尊重した サービスを提供するよう徹底したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族等の不安のないよう事前に十分な説明をしている。	○	継続して十分な説明と同意を得るように努めていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見・不満苦情等については、管理者・職員が常に傾聴するようにしています。	○	意見や不満・苦情等が遠慮なく言っていただけるようにしていき、改善に取り組んでいきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には、管理者及び常時関わっている職員が近況の報告をしています。金銭管理については、説明印をいただいている。	○	家族のいない方についても擁護していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加や意見箱の設置により意見・不満・苦情が言っていただけるように機会を設けている。	○	意見・不満・苦情等が遠慮なく言っていただけるような関係作りをしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	要望書により職員の意見や提案を聞き、職員間で話しあえるようにしている。	○	管理者・常勤・非常勤と関係なく入居者の為に良い意見はどんどん言い合えるよう壁を作らないようにしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者・家族に安心感を持っていただけるよう職員の確保と勤務体制が取れるように調整に努めている。	○	質の向上の為、職員の確保と勤務体制が取れるようにさらに努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症ケアにおける馴染みの関係の重要性を意識し常時関わる職員を配置し不安感の無いように配慮している。	○	できる限り安心していただける環境作りに努め、馴染みの関係を断たないよう職員の定着に努めていきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護のリーダー実践者研修・認知症介護実践研修などの参加。防火管理者習得講習・感染症・食中毒予防対策・レクレーション講習講演会などに参加し職員のスキルアップに努めています。	○	職員の質の向上とスキルアップになる研修等は引き続き参加していただく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとの交流会や職員同士の訪問などネットワークを作りサービスの質の向上につながる取り組みをしていこうと地域のGHの管理者の集まりを来月行う予定。	○	職員同士も交流し、他のGHを見て自己のGHの向上に努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務上支障の無い限り休憩を取ってもらうように職員に声掛けをしている。ボーリング大会・懇親会等も実施している。	○	業務上休憩時間が統一できていない時もあるが改善して努力していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修や講演会など参加できるようにし、職員の意見を取り入れ積極性をなくさない様に支援している。	○	レクレーション委員に若い職員になってもらい、積極的に参加し意識の向上に努め働き甲斐のある職場作りを今後もしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	GHの事を理解されていない方も多く入居者の気持ちを聴き、受け止める工夫をしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	GHの事を理解されていない家族等には十分に話し合う機会を作り納得していただけるように努めたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○	本人と家族の求めている援助を的確に見極め、サービスの提供をできるよう今後もしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	○	本人の不安を和らげられるように配慮し「帰りたい」と言う気持ちが少しでも弱まるように全職員と共に工夫していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○	共に支え合い生活していく姿勢を今後も継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の誕生日会・G Hの行事の時は、家族にも参加していただけるように事前に連絡している。	○	引き続き今後もG Hだより等を送付して近況の報告をしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係がより良く築けるように職員が支援している。訪問時は本人と家族に一緒にお茶などを飲みながら和やかに話せるような場を提供する。	○	家族等にも一緒に食事に参加していただけるように今後計画していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が生活していた場所に行きたいと要望があれば可能な限り同行し、関係が途切れないように支援を努めている。	○	馴染みの場所に同行する事により本人のG H入居前のの生活を知り、今後のケアに活用したい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係がスムーズに取れるように職員が心がけ、間に入りより良い関係が作れるように支援している。	○	入居者同士の関係がスムーズにいけるように関わり合いが持てる様に全職員が支えあっていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても来訪していただけるように声掛けをしている。	○	サービス終了後の家族等にも今後関係が断ち切らず付き合っていけるように連絡が取れる方には交流していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望にそえるように努めていきたい。困難な場合は本人本位に立ち検討していきたい。	○	入居者の思いは日々変化していくので随時対応し本人本位になっているか確認していきたい。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりの思いを受け止め、出きることはしていただき、出来ないところは支援している。生活歴の把握をきちんと記録に残せないで今後センター方式のりようを検討したい。	○	生活歴を把握し馴染みの暮らし方を取り入れ活かしていけるように支援していきたい。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中で一日の過ごし方の思いや心身状態については、申し送りにより全職員が把握するように努めています。	○	心身状態はその日ごとに変化しているので適切に把握し一日の生活がその人らしく暮らせるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや家族の意見などに基づき介護計画作成を行いカンファレンスやミーティングで話し合い、ケアにいかしている。	○	ケアマネージャー・介護職員がチームを作りより良い介護計画内容であるか検討していきた。
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについて、ケアマネージャーと相談し、助言により本人家族と話し、ケアマネージャーを交えたケアカンファレンスを行っている。	○	記録しケアカンファレンスをおこない、生活の変化が生じた場合、現状に即した計画を立てていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化については申し送りノートにより記入し情報を共有している。今後「気づきノート」の使用も検討していく。	○	気づきノートの使用や個別記録がすぐに解かるような情報の共有の仕方を考えていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者・家族の要望に応じ自主サービスのリハビリへの通院などを対応している。自己事業所の他のグループホームと食事会（屋外バーベキュー）を行った。	○	医療との提携により随時適切な対応を今後も継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域自治会や民生委員等の協力を得ている。	○	地域のボランティアや職員の知人のボランティアの方々に行事等の時には参加して協力していただいている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人を知るケアマネジャーの方には、引継ぎ後も継続して関わっていただけるように支援している。	○	本人を知るケアマネジャーの方々には引継ぎ後も連絡を取れるよう関係を作りたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護制度の利用を必要に応じて対応していきたい。	○	地域包括支援センターとは今後協働して情報を得ていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の納得が得られる医療機関を受診できるように対応している。	○	本人が適切と思い納得できる医療が受けられるよう支援していきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ他医療機関及び精神科、心療科の受診をしている。	○	本人の心身の状態など見極め適切な医療が受けられるようにしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携病院の看護婦とは何かあればきがるに連絡し助言してもらえる関係を作っている。	○	今後も夜間帯や急変時の対応にも適切に助言して頂ける体制を取っていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時も職員が定期的に訪問している。可能な限り早期退院しG・Hで生活していけるよう支援している。	○	入院された入居者に馴染みの職員が訪問し入院の不安をなくすよう努力している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	出きるだけ穏やかに生活して頂けるよう方針のあり方を話しあう。ターミナルケアについても今後職員と勉強したい。	○	ターミナルケアについて職員同志の話し合いをしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアについてもチームでの支援体制を強化していきたい。	○	今後も出きるだけ穏やかに生活して頂けるよう医療連携をとり取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	居住の変化に対応できるような関わりに努めてい きたい。	○	職員の十分な話し合いで変化に応じダメージ防止 に努めたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	プライバシーや個人情報の取り扱いに注意してい る。	○	プライバシーや個人情報については常に心がけ守 秘義務を徹底していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	希望を聞き本人が選択決定できるよう支援してい きたい。	○	納得して頂け希望に添えるよう今後も支援してい きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	一人ひとりのペースを大切にし尊重するのが理想 ではあるが少人数でも共同生活であるので出きる 限り希望に添っていきたい。	○	少人数でも共同生活である為個人のペースに合わ せる事が出来ない時もあり今後その人らしい暮ら しがして頂けるよう努力したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	理美容については月一度ホームに来て頂いている ので本人の希望を事前に聞き行なっている。	○	今後も訪問理美容を活用していき支援したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状況に応じ準備、配食、片付け等も行なって頂き職員も一緒に食事を取っている。	○	出来ることはして頂き出来ない所を職員が支援し車椅子の方もできるよう工夫し参加して頂いている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品については状況に応じ対応しているが現在タバコ、アルコールを飲まれる方はおられません。	○	今後も医療的にだめな方には違う方法で工夫し支援したい。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導や排尿チェック表を活用していき羞恥心に配慮し対応していきたい。	○	引き続きその人に合わせた対応をしていきチェック表の活用を続けたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に出来るだけ添うようしたいが現状は一日に入って頂ける人数があつた。入浴拒否の方には無理強いせず、声かけの工夫に努めている。	○	可能な限り希望に添うよう努力し、清潔の保持に努めたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その人の生活リズムに合わせてその時の状況に応じている。	○	日中の生活がはりのある生活になるよう工夫し夜間の睡眠が取れるようレクなどを行なう。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いや楽しみのある日々を過ごせるよう、散歩、買い物等行なっている。	○	もっと外出の機会を作りみんなが参加できる行事をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し管理して頂くのが困難な方についてはG・H金庫に保管し本人にその事を伝え希望があればその都度対応している。管理ができる方には定期的に本人に渡し管理されている。	○	お金に関しては所持することにより不安等が現れるので安心して頂けるよう本人、家族等と話し合い支援したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物の希望があれば職員が同行し対応している。出来るだけ外に出ようホームの花壇やホーム前に出て行けるようしている。	○	おやつなど天気が良い日にはホームの庭で食べて頂けるよう工夫している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足、花見、外食等希望される方には定期的に行い参加して頂くよう支援している。	○	今後は家族も交え参加して頂ける機会を作っていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状など本人ができる限り書いて頂き近況報告していただき、電話については希望されればかけて頂いている。	○	近況の報告や写真も入れ本人自ら交流できるよう支援したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜間以外は自由に訪問して頂けるようしている。訪問して頂いた方には再度訪問して頂けるよう職員が声かけしている。	○	訪問して頂いた方と本人がゆっくり話しができる場の提供をしていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないで安全で安心して生活して頂けるよう全職員に指導し知識を学び適切なケアが提供できるよう心がけている。	○	今後も危険性のない場合以外は身体拘束しないよう指導していきたい。危険性がある場合も身体拘束せず対応に工夫していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が他の駐車場と共有しているので危険性があり鍵をかけている。危険なものの収納の場所以外は鍵をかけないよう配慮している。	○	職員が対応できる時間帯は今後も鍵をかけないよう努力したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	少人数の為に入居者が何をされているのか常に把握している。	○	夜間帯はひとりになるので事故のないよう常に意識し対応していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常生活の中で必要な物品については危険がない限り普通にしている。入居者の状態に応じ気づきを持ち見守っている。	○	入居者の状態に応じ対応している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと報告書、事故報告書を検討し再発防止に取り組んでいる。	○	引き続き事故防止について全職員が意識し対応できるよう話し合っていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応について定期的に行なっていないが急変時の対応については話し合っている。	○	今後は応急処置の方法など医療提携の医師、看護婦の研修会の機会を増やしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の自治会の協力も得られるのでホームも地域の防災訓練にも参加したい。	○	ホームの建物は安全性が高く災害等あれば広く地域にも活用して頂きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクについては入居時必ず本人、家族等と話し合い納得して頂いている。	○	今後も本人、家族等と話し合い予防できるようなのように対応していくか職員間でも話し合っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の体調の変化には気づきをもち対応し異変時は速やかに対応している。	○	異変があれば提携病院への医師、看護婦に速やかに連絡がとれるよう対応している。(夜間帯も連絡可能である。)
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理等は社員が責任を持ち行なっている。副作用等については処方内容を見るよう努めている。	○	全職員が把握するよう今後もナース研修会を通じ学んでいきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘確認についてはチェック表を記入し排便のない方には申し送り等で記録し把握している。便秘予防の食材、飲み物にも工夫している。	○	食事の際に排便をそくするような食材等を取り入れ工夫していきたい。適切な運動もレクに取り入れていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ずケアしている。義歯の清掃にも気を配っている。歯科医師、歯科衛生士にも相談している。	○	毎食後の口腔ケアの意義も今後持ち続け歯科医師、歯科衛生士に受診
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表を記録し把握している。	○	栄養バランスについては今後も栄養士と相談し献立を考えていきたい。水分が取りにくい方には工夫をしゼリー状にし摂取して頂いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルに基づき消毒を行い予防に努めている。	○	感染症については早期予防・対応していきたい。 感染症の講習会にも参加している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限のチェック・勝利器具等の衛生管理に努めている。	○	手洗いの励行、清潔の保持に今後も十分に注意していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表札、玄関周りの園芸、庭の手入れ等工夫している。	○	庭については来春から夏に新鮮な野菜ができるようにしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には入居者の外出した時の写真やホームでの写真や季節の飾りつけなど本人の作品など温かみのあるようにしている。	○	入居者の希望、意見を取り入れ居心地のよい場所になるよう配置転換もしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同志お互いの居室で話されている。共用の空間ではソファをおいているのでその場でくつろぎも見られる。	○	場所の確保安全性があれば畳の空間もあるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前の馴染みの物や家具等持ってきて頂いているが沢山の家具等は無理な場合がある。	○	危険のないように使い慣れた物や家具を活かせるよう支援したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室、フローには換気扇があり常時使用し窓等も開け空気の入替えにも配慮している。	○	引き続き換気や温度調節に十分に気をつけていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下以外も浴室など必要に応じて手すりを設置している	○	身体状況に合わせ必要に応じ手すり等の設置を増やしたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかる力を活かし、わからない事・出来ない事について支援し、混乱を防いでいきたい。	○	残存能力を少しでも活かし自立して暮らせるように支援していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭の手入れや水やり等に参加していただいている。	○	引き続きみんなが楽しめるような菜園作りの工夫をしていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム天下茶屋は（医）小池外科の経営ということで、医療との連携を取り、入所者様やご家族様に安心感を与えられるように努めています。

（医）小池外科グループとして5つのグループホームがあり、互いに情報交換や空き室情報の共用・管理者の懇親会等を開き、サービスの向上に努めています。

地域とのお付き合いも大事にさせていただき、地域の定例会や親睦会にも参加させていただき、運営推進会議だけではなく、地域住民の皆様のお声を聞かせていただいております。地域の方で趣味・活動等でいろいろ活動されている方々にお願いして、当施設の行事にボランティア等でかくし芸とか踊りとかをお願いして出てもらえるように準備中でもあります。

「スマイルだより」を発行し家族さまに送付させていただきだけでなく、地域の回覧板にも掲載させていただいて、地域の役員さんだけでなく、住民の方にも当施設の運営をご理解いただいております。